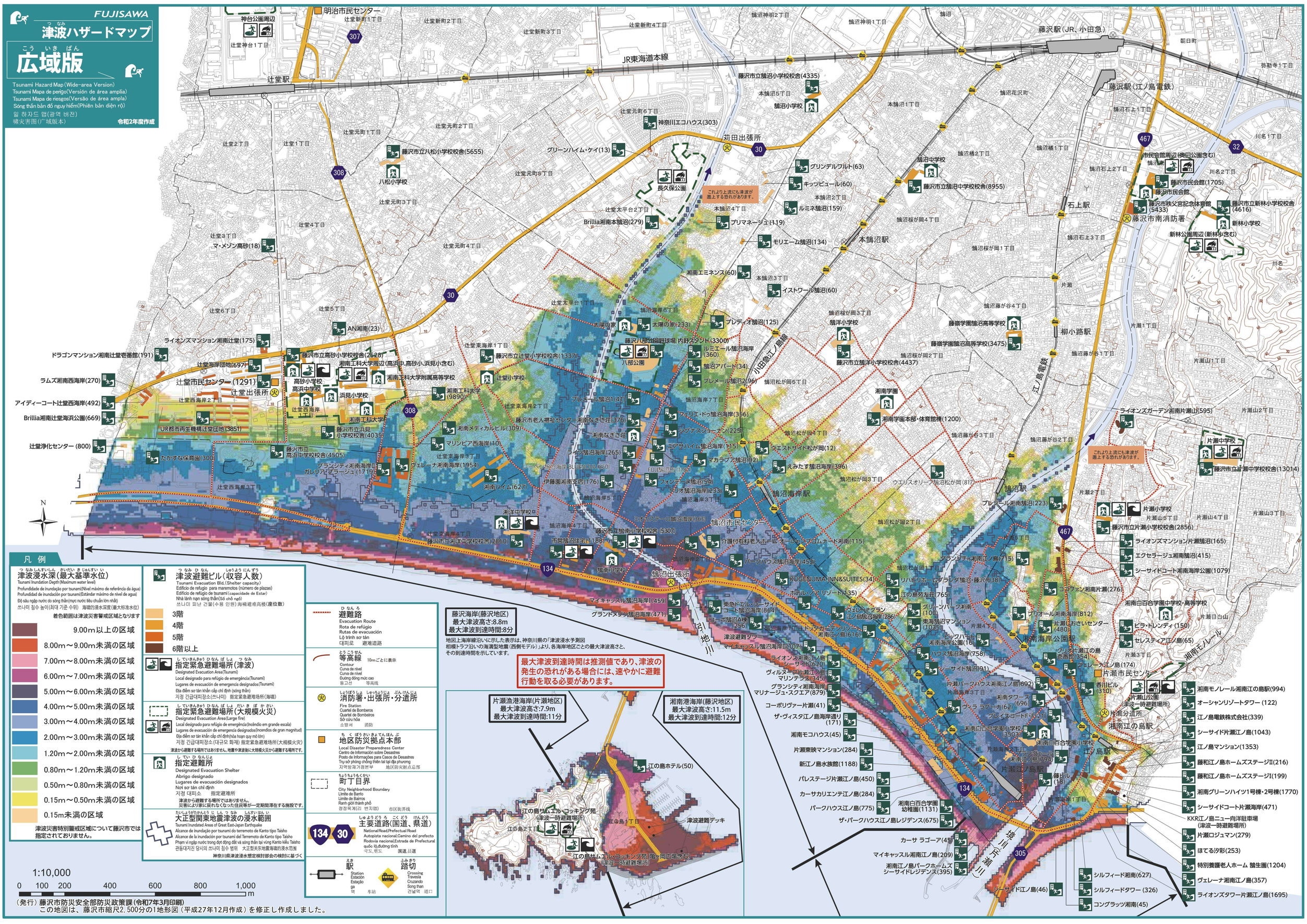
FUJISAWA

津波ハザードマップ

広域版

Tsunami Hazard Map (Wide-area Version)
Tsunami Mapa de perigo(Versión de área amplia)
Tsunami Mapa de riesgos(Versão de área ampla)
Sóng thần bản đồ nguy hiểm(Phiên bản diện rộ)
일 하자드 맵(광역 버전)
嘯災害图(广域版本)

令和2年度作成



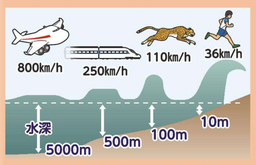
（発行）藤沢市防災安全部防災政策課(令和7年3月印刷)
この地図は、藤沢市縮尺2,500分の1地形図（平成27年12月作成）を修正し作成しました。

1 津波とは

津波とは地震等による海底地盤の隆起や沈降によって、海水が上下に変動することで引き起こされます。海水そのものが水の塊となって動くため、風によって引き起こされる波浪よりも威力は大きく、その規模によっては凄まじい破壊力を持っています。津波の「津」とは「港」を意味し、「津波」とは津（港）に押し寄せる異常に大きな波のことを意味します。

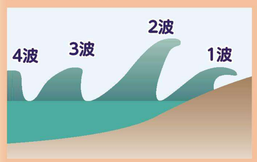
津波の特徴

津波の速さと高さ



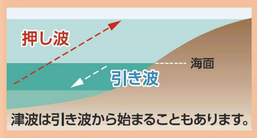
津波の速度は、海の深いところでは速く、浅くなるにつれて遅くなりますが、波の高さは浅くなるほど高くなります。

繰り返し襲ってくる



津波は2度3度と繰り返し襲ってきます。また、波の高さは1度目よりも2度目の方が高いこともあります。

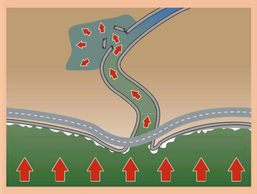
押し波と引き波



津波は引き波から始まることもあります。

津波が沖合から海岸に向かって進行する場合を押し波といい、津波が海岸から沖合に向かって進行する場合を引き波と言います。

河川の遡上



津波が河川を遡上し、堤防を越えたり壊したりして、被害をもたらすことがあります。

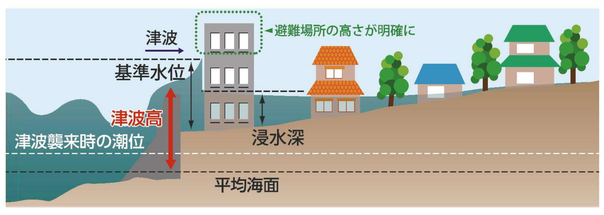
用語解説

▶**津波高**
海岸線における、平均海面から津波の水面までの高さ

▶**到達時間**
津波が海岸に到達するまでの時間

▶**浸水深**
それぞれの場所において、水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

▶**基準水位**
浸水深＋建築物等への衝突によるせり上げ高さ



2 津波から命を守るために

自らの命は自ら守る 海や川の近くにいて地震にあったら、すぐに避難することが大原則です。

津波から身を守るために

●津波警報を見たり聞いたりしたら急いで逃げる。
揺れが小さくても大きな津波が起こることもあります。

●できるだけ早く海や川から離れましょう。
津波は低いところから襲います。できるだけ早く、海や川から離れ、高いところに逃げましょう。

●津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が出ている間は避難をつづける。
初めの波より後に来る波が大きいこともあります。

適切な避難のために

●近くに高台が無い場合は？
津波避難ビルや鉄筋コンクリート製の堅ろうな構造のビルに逃げましょう。

●車での移動は厳禁
道路の損傷や家屋の倒壊等、車での移動が困難になるほか、円滑な避難の妨げとなるため、車での移動は避けましょう。

●無駄なものは持ち出さない
必要以上のものを持ち出さないようにしましょう。避難の妨げとなる可能性があります。

●情報の入手手段
ラジオやテレビ、インターネット、防災行政無線（屋外にいる方）等により、正しい情報を事前に入手しましょう。

津波てんでんこ

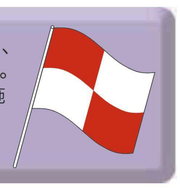
「てんでんこ」とは「てんでんばらばらに」を表す東北地方の方言です。「津波はあっという間にやってくるため、各自てんでんばらばらに高台に逃げなさい」という意味を込めて「津波てんでんこ」と言われ、「自らの命は自ら守る」という大原則を表しています。

家族や地域で事前に話し合う

津波避難は一刻を争うため、離ればなれになった家族を探したり、とっさの判断に迷って逃げ遅れてしまうことも少なくありません。そのため、たとえ家族が離ればなれになったとしても、適切な避難行動がとれるように、家族や地域でお互いの行動をあらかじめ話し合い、決めておくことが大切です。

津波フラッグ

気象庁が発表する津波警報等（津波注意報, 津波警報, 大津波警報）は、テレビ、ラジオ、緊急速報メール、防災行政無線等、様々な手段で対象地域にいる人々に伝達されます。視覚による伝達手段として、これまでオレンジフラッグを使用していましたが、気象庁が令和２年６月に気象業務法施行規則及び予報警報標識規則を改正し、全国統一で「赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）」を使用することになりました。藤沢市では、令和３年度から『オレンジフラッグ』を『津波フラッグ』にかえて使用を開始しています。



3 津波警報・注意報と津波情報

情報の種類

津波による災害が予想される場合、大津波警報（特別警報）、津波警報、津波注意報を発表し、同時に到達予想時刻や予想される津波の高さなど「津波情報」を発表します。津波による被害の恐れが無い場合は、津波予報を発表します。

警報・注意報の種類ととるべき行動

	予想される津波の高さ 数値での発表（発表基準）	予想される津波の高さ 巨大地震の場合の表現	とるべき行動	想定される被害
大津波警報（特別警報）	10m超（10m<高さ）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m（5m<高さ≦10m）			
	5m（3m<高さ≦5m）			
津波警報	3m（1m<高さ≦3m）	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m（20cm≦高さ≦1m）	（表記しない）	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。小型船舶が転覆する。

※震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
※津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
※地震発生後、予想される津波の高さが 20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報（若干の海面変動）」を発表します。

「巨大」という言葉を聞いたら？

「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高いところへ避難しましょう。

津波に関する情報の発表タイミング

地震（津波）発生

約3分

津波警報、津波注意報 第1報
避難距離=歩行速度×（津波到達予想時間−避難開始時間）避難開始を早めることが避難時間を確保するために重要となります。

津波情報（警報・注意報にともなって発表）
- 津波到達予想時刻・予想される津波の高さ
- 各地の満潮時刻
- 沿岸で観測した津波の到達時刻や高さ、沖合の観測地から推定される沿岸での津波到達時刻や高さ

約15分

津波警報、津波注意報 更新版

数時間～数日

津波警報・注意報 一部解除

全解除へ

津波予報（津波による被害の恐れがなくなったら）
- 注意報解除後も海面変動が継続
- 海に入っての作業や釣り、海水浴等は十分な留意が必要
- 0.2m未満の海面変動が予想
- 被害の心配は無く、特段の防災対策は必要ない
- 津波が予想されない時
- 津波の心配なし

予想される津波の高さや到達時刻はあくまでも目安です。実際とは異なる場合がありますので注意しましょう。

4 東日本大震災の教訓

津波の教訓を生かす

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、約19,000人もの方が津波の犠牲になりました。今後、このような犠牲者を出さないため、この震災の経験を教訓とし、震災を自分のこととして考えることも大切です。

見えてくる教訓

▶津波避難は一刻を争うもの。ためらわずに急いで避難する。
▶家族や親戚が心配でも、海や川のそばには絶対に戻ってはいけない。
▶車での避難は危険。渋滞に巻き込まれ、逃げ遅れることがある。
▶油断をしない。予想外に大きな津波に襲われることがある。
▶地震による停電や機器の故障などで津波警報等の情報がとれないこともある。情報に依存せず、適切に避難する。

津波災害に備えて

このハザードマップを見て、津波や津波避難について家族や地域で話し合いましょう。普段から、津波の恐ろしさや避難の方法など災害時の行動を話し合っておくことが、いつ襲ってくるかわからない津波に対する有効な備えとなります。

【参考資料】気象庁ホームページ、一般財団法人 日本気象協会「津波の基礎知識」　【写真出典】国土交通省「東日本大震災の記録 ―国土交通省の災害対応―」